

ごあいさつ

門司電気通信レトロ館は「北九州市ルネッサンス構想」(門司港レトロめぐり海峡めぐり推進事業)に調和した文化的建造物である旧NTT門司営業所の建物に、電信・電話で活躍してきた古い設備や過去を語る貴重な史料などを歴史的遺産として保存するとともに、その一部を一般公開するため1994(平成6)年に開設しました。

また、2009(平成21)年には、「地域活性化に役立つ近代化産業遺産」として認定されています。

1869(明治2)年、日本初の電信が東京と横浜間で開始されて以来、人と人とを結ぶコミュニケーション手段として技術革新を重ねてきた歴史をご覧ください。

建物の概要

1924(大正13)年
逓信省門司郵便局
電話課庁舎として建築
設計者:逓信省技師 山田守氏

電信電話の需要拡大を背景に新型交換機導入のための重量・高さ・防塵に優れた鉄筋コンクリート造り3階建て。火災の際、ガラスの損傷や延焼を防ぐため流水防火装置を内蔵するなど技術の粋を集めた100年前の情報通信先駆けの建物です。

建物正面は垂直線を基調に柱の反復がリズムを織りなす意匠で、門司港地区のレトロ建築を代表する建物のひとつです。



HERITAGE OF INDUSTRIAL MODERNIZATION
当館は2009(平成21)年近代化産業遺産として認定されました。

アクセス情報

- JR門司港駅下車 徒歩で約10分
- 西鉄バス 「レトロ東本町1丁目」下車 徒歩2分
- 車 関門トンネル 門司料金所から1分
九州自動車道 門司港ICから5分
北九州都市高速4号線 春日ICから7分
- 船 関門連絡船のりばから徒歩10分

ご利用案内

- 開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
- 休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)
年末年始(12月29日~1月3日)
- 入館料 無料
- 駐車場 乗用車4台程度可/バス2台(要予約)
(駐輪スペースあり)

門司電気通信レトロ館

北九州市門司区浜町4番1号

TEL・FAX 093-321-1199

<https://www.ntt-west.co.jp/kyushu/moji/>



門司電気通信レトロ館

Moji Telecommunication Museum

通信の歴史に
タイムスリップ。



 NTT西日本

声 電気通信のルーツへ、ようこそ!

をつなぐ

明治・大正・昭和・平成と時代を語る電信・電話機器や史料などを展示しています。



お店や街角で多くの人に親まれてきた公衆電話の移り変わりをご覧ください。希少なモデルも展示しています。

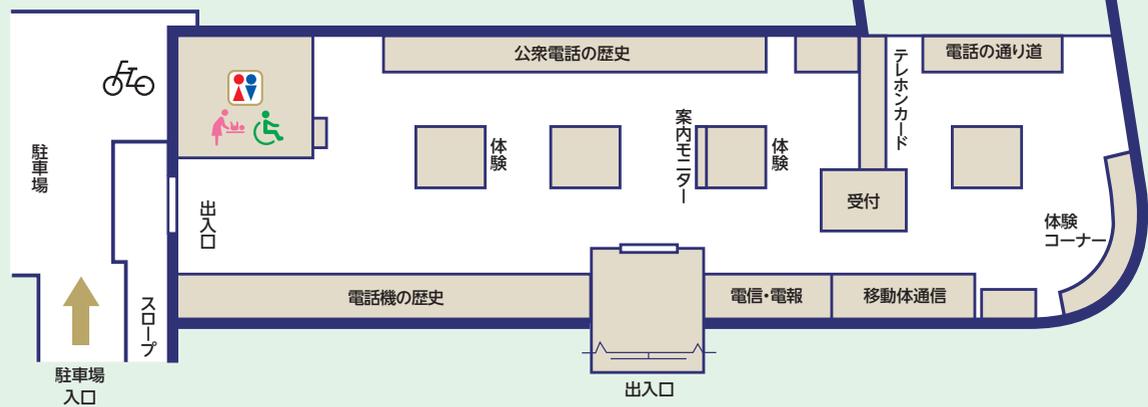


空中を走り地下をめぐる通信線路を展示しています。

記念フォトコーナー



1900 (明治33)年9月、公衆電話が初めて街頭に進出しました。まず、上野・新橋の両駅構内の2カ所に、10月には最初の公衆電話ボックスが京橋のたもとに設けられました。



日本や世界のテレホンカードを展示しています。



グラハム・ベル電話機(復元)を始めとし、国産第1号電話機など明治から現代に至るまでに活躍した電信・電話機等を展示しています。

親

ことに しむ

ダイヤル式の電話機を使って通話体験ができるなど、お子さまから大人の方まで楽しみながら電気通信の仕組みに親しんでいただけます。

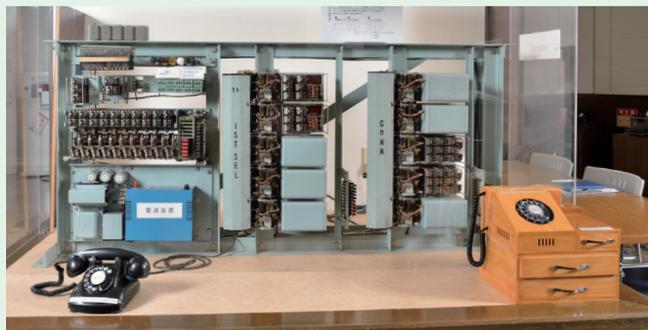
磁石式手動交換機

1890 (明治23)年、東京～横浜間で電話交換業務が始まりました。電話機のハンドルを回して電気を起こし、交換手や通話相手との会話をお楽しみください。



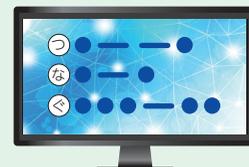
H形自動交換機

1926 (大正15)年関東大震災後の復旧に合わせて登場した自動交換機。ダイヤルの動きに合わせて接続される交換機の仕組みを間近でご覧ください。



モールス信号

米国のペリー提督が徳川幕府に電信機を献上。電信は文明を変える手段として発展しました。本物の電鍵で画面を見ながら、「トン」「ツー」(信号)を打つことができます。



時

をむすぶ

非公開エリアのご見学

前日までにお電話でご相談ください。

ご予約制

大正ロマン漂う▶建物見学

1924 (大正13)年当時のままの天井は左官職人の手による漆喰の装飾が施されています。



◀電気通信技術の革新を知る保存品見学

日本で唯一、動態保存されているクロスバ交換機。全盛期の活躍ぶりを体感してください。

- お子様向け 公衆電話機の使い方ご説明
災害用伝言ダイヤルサービス体験

ご来館記念スタンプ